

# 「総合的な学習の時間」の創設と実施に向けて

小平市教育委員会教育長 坂井 康宣  
(H12.10～H20.9)



〔東京ボランティア・市民活動センター「総合的な学習の時間」  
指導者養成セミナー報告書（平成13年度実施）〕

多くの答申、提言や産業界からの意見等、「完全学校週5日制」に向けた教育改革への考えや意見は出尽くし、平成14年4月から、新しい学習指導要領による「完全学校週5日制」がスタートする。そこで、「ゆとり」の中で「生きる力」を育成することをねらいとした、「教育課程の基準の改訂」の基本方針や、「教育課程の完全実施のための課題」を改めて確認し、万全を期したい。

## 改訂の基本方針

- ① 豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること
- ② 自ら学び、自ら考える力を育成すること
- ③ ゆとりのある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること
- ④ 各学校が創意工夫を生かして特色ある教育、特色ある学校づくりを進める

## 1. 個性重視の教育の実現に取り組む

今次教育改革の最大の目玉でもある、「総合的な学習の時間」の創設や「選択教科の履修幅の一層の拡大」、「習熟度別学習」、「少人数学習」等の導入には、その根底に「個性重視の原則」があり、個性を生かす教育への質的・方法的転換をねらったものと理解している。今次教育改革の課題の一つに、「教師の意識改革」が挙げられる背景には、これまでの学校教育の在り方を改め、改革・改善の具体策を創り、提案・説明することへの取り組みの弱さや、内部改革の困難さが推察できるからである。

「生きる力」をはぐくむことを目指した新学習指導要領の改訂において、「総合的な学習の時間」の創設は最大の課題であり、移行期間を含め、これまで多くの学校や地域社会を巻き込んで、試行・実践が積み重ねられてきた。一方で、創造的な学習体験活動づくりのために取り組まれた事例がマニュアル化され、パターン化されているとの批判も多い。先進校の研究実践等はあくまでも参考であり、そのまま各学校で実施できるものではない。大事なことは、これまでにそれぞれの学校や地域が取り組んできた「特色ある教育活動」や「地域社会の実態を踏まえて構成された指導計画」、「実践記録」を基に、改めて地域社会を見直すことである。

「総合的な学習の時間」の創設・整備の遅れている学校が、早急にしなければならないこと

は、「どんな課題に取り組むことができるか。」「誰が、どんな場面でボランティアとして支援していただけるか。」「どんな学習活動が、学校や地域社会の中で展開できるか。」等、全教職員が一丸となって検討を重ね、**学校独自の「総合的な学習の時間」の具体的な指導計画を作成し、一人一人の児童・生徒が活躍できる「学習支援プログラム」を用意することである。**

## 2. 学校開放を一層進め、住民参画型の学習活動を展開する

これまでも、「開かれた学校の推進」とか、「学社連携」「学社融合」と、学校教育と社会教育の関係づくりが課題とされてきた。

「第一の学校開放」は、学校行事や授業の公開から始まった。

「第二の学校開放」は、授業に支障のない範囲において、体育館や特別教室、校庭の開放など、コミュニティセンターとしての施設・設備の開放が進められてきた。

そして今や、「**第三の学校開放**」を進めなければならない。**児童・生徒の多様な個性・能力に応じた学習活動を展開しようとするとき、教える側にも多彩で多様な個性・能力の持ち主をできるだけ大勢、スタッフとして登録し、授業等に活かす仕組みの整備が必要である。**

この考え方が、学校支援ボランティアの発想であり、多くの皆さんが「ゲストティーチャー」として、「アシスタントティーチャー」として、さらに、学校と地域社会のパイプ役、調整役としてのコーディネーターとして教育活動に参画されることを期待している。

ところで、「総合的な学習の時間」が導入され、新しい試みが進むにつれ、学校の教育活動がこれまでと大きく変わろうとしている。

**これまでの学校教育は、どちらかといえば、閉ざされた教育環境の中で、教師主導によって学習活動が展開されてきた。「総合的な学習の時間」は、学校の中はもとより地域社会に出かけて学習することが多くなる。学習課題も、児童・生徒が自ら地域社会に出かけ、問題を見つけ、課題解決に向けた体験的な活動に取り組むとともに、地域の人材の支援を求め、大人も学習に参加する機会が多くなってくる。**

小平第五小学校が、平成11・12年度、小平市教育委員会の研究推進・協力校として、福祉体験学習に取り組んだ一つの事例を紹介しよう。

「視覚障害者」との交流や「アイマスク体験学習」、「盲導犬への理解」を通し、障害者との共生社会を目指すには、社会基盤のバリアフリー化の問題、それ以上に、人々の心のバリアをいかに取り除くかが問題であることを、体験を通して学ぶ学習が展開された。この指導計画作成には、当初から視覚障害者の方やボランティアも加わり、担任の視点からでは見えない学習活動の設定がなされた。さらに、障害者でなければ解らない問題や胸の内。ボランティアでなければ気がつかない心遣いや介助の実際等を取り入れた指導計画が、納得がいくまで打ち合わせを重ねて作成された。

まさに、**住民参画型の学習活動が、企画段階から一緒に繰り広げられたのである。**

子どもたちは、「盲導犬と一緒にだと、近所のレストランに入れない。」と、視覚障害者の方がふと漏らした一言に心を動かされる。そして、自分たちから保健所を訪問し、解決への助言

や指導を受けたり、「盲導犬への誤解」を解くために、レストランのオーナーに話し合いの時間をもってもらったり、大変精力的に行動し、ついには、視覚障害者が盲導犬と一緒にレストランに行けるように難題を解決するという快挙をやってのける。久しぶりに感動を覚えた授業であり、無意識のうちに、子どもたちの「本物の学習活躍」に拍手をおくっていた。

### 3. 教育活動の説明と活動過程、結果を報告し、協力を得る

「総合的な学習の時間」における学習活動は多くの方の支援を必要とし、何が起きるか予測のできないことも多い。そのためには、協力をいただく**関係者のみならず保護者にも学習活動の説明を十分に**し、理解と協力を得ることが学習活動をより豊かにし、発展させることになる。

#### ① 指導計画作成参画と活動説明

学校経営において、アカウントビリティーの視点から保護者や地域住民に向けての学校経営の説明が開かれるようになってきたが、これは、学年経営や学級経営はもちろん教科指導等教育活動全般についても同様のことが求められている。特に、「総合的な学習の時間」のように、できるだけ多くの関係者に参画をお願いし、子どもに豊かな体験を保証し、提供できるような授業を構成するためには、活動の目的や授業内容をできるだけわかりやすく説明するとともに、**保護者や地域の関係者・協力者の指導計画作成への参画や学習活動への支援の場面・役割等、お互いに確認すること**は、授業成功の重要な要素となる。そこで、この間の取り組みについては、「〇〇プラン説明会」を開いたり、「〇〇通信」等を発行し、子どもを通して確実に周知を図ったり、多くの方に案内することが大事な取り組みとなる。

#### ② 活動や成果を報告し、地域の教育力の回復を図る

総合的な学習の時間では、班活動や班を幾つかのグループに分け、活動することも多くなる。**班や学級全体の活動目的を常に維持し、協力しながら学習を進めていくためには**、その過程の中に報告会を意図的に設け、学習経過やこれまでの成果や問題点をお互いが確認しておくことが指導のポイントとなる。そこで、経過報告会や体験発表の時、あるいは、研究発表会には、できるだけ多くの関係者の参画を図り、発表も分担し、まさに総合的な発表の場となるように企画することが大事である。小平市においては、研究発表会には学校関係者・研究に携わった関係者のみならず、保護者、地域住民にも案内し、公開している。**研究の経過や成果等を、子どもも、保護者も、関係者も、教師も、地域住民も、みんな一緒に共有することが、「総合的な学習の時間」のみならず、全ての教育活動を支え、広げ、豊かにすることになる。**総合的な学習の時間の創設は、今次「教育課程の基準の改善」の根幹をなすものである。多くの学校で、地域の特性を生かし、特色ある教育活動の創造に向けて取り組み、間違いなく成果も上がってきている。必ずや、子どもたちの体験学習の内容が広がり、深まり、地域社会との交流もこれまで以上に活発になってくる。「**世代を越えたコミュニティづくり**」を進める重要な教育活動であり、**子どもたちの世界を広げ、豊かにするこれまでにない教育活動である**ことを改めて自覚し、「地域の教育力の回復」に向け、多彩で多様な学習活動が展開されることを期待している。